

令和7年12月19日

関東運輸局

## 《公共交通シンポジウム》

## 「運転者不足時代の公共交通を考える

## ～自治体×事業者×広域連携の可能性～」を開催します

近年、バス運転者の不足により、路線の廃止や減便が拡大しています。こうした状況の中、地域公共交通の確保・維持のため、自治体と交通事業者が密にコミュニケーションをとりつつ、最適な交通ネットワークを目指して、複数の市町村や都道府県で連携した取組を行うことが必要になっています。シンポジウムでは具体的な取組事例を交えながら、「自治体×事業者×広域連携」の取組の意義や方向性について考えていきます。

## 記

## 【開催概要】

1. 日 時：令和8年1月16日（金）14:00～17:00
2. 場 所：日比谷コンベンションホール（日比谷図書文化館地下1階）  
（東京都千代田区日比谷公園 1-4）
3. 参加費：無料
4. 参加方法：現地（後日、関東運輸局公式 YouTube チャンネルで録画を配信予定）
5. プログラム  
開会挨拶：関東運輸局次長 佐藤 克文  
開催趣旨説明：交通政策部長 矢吹 尚子  
基調講演：吉田 樹氏  
（福島大学経済経営学類教授／前橋工科大学学術研究院特任教授）  
事例紹介①：関根 康洋氏（西武バス株式会社取締役事業本部長）  
事例紹介②：山下部 裕太氏（府中市都市整備部計画課交通企画担当）  
事例紹介③：室井 佑文氏・平野 純氏  
（那須塩原市市民生活部交通防犯課交通対策係）  
事例紹介④：佐藤 龍一氏（福島県生活環境部生活交通課）  
パネルディスカッション
6. 参加申込：参加又は取材希望の方は、申込フォームで受け付けます。  
（<https://forms.office.com/r/qJn098MC7U>）  
※定員（70名）に達し次第、締め切りとさせていただきます。
7. 主 催：関東運輸局



【問い合わせ先】関東運輸局交通政策部 交通企画課 鈴木(朝)、鈴木(颯)、永井

tel:045-211-7209 fax:045-201-8807

【同時配布先】横浜海事記者クラブ、都庁記者クラブ、神奈川県政記者クラブ、千葉県政記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、茨城県政記者クラブ、栃木県政記者クラブ、群馬県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、関東運輸局記者会「ハイタク等専門紙」、物流専門紙

# 運転者不足時代の 公共交通を考える

～自治体×事業者×広域連携の可能性～

2026.

1.16 金

14:00～17:00 | 参加無料

近年、バス運転者の不足により、路線の廃止や減便が拡大しています。

こうした状況の中、地域公共交通の確保・維持のため、自治体と交通事業者が密にコミュニケーションをとりつつ、最適な交通ネットワークを目指して、複数の市町村や都道府県で連携した取組を行うことが必要になっています。

シンポジウムでは具体的な取組事例を交えながら、「自治体×事業者×広域連携」の取組の意義や方向性について考えていきます。

## 基調講演

福島大学経済経営学類教授  
／前橋工科大学学術研究院特任教授

吉田 樹 氏

持続する都市と公共交通に求められる「連携」のあり方

## 事例紹介

西武バス株式会社 関根 康洋 氏  
取締役事業本部長

府中市 山下部 裕太 氏  
都市整備部 計画課 交通企画担当

那須塩原市 室井 佑文 氏  
平野 純 氏  
市民生活部 交通防犯課 交通対策係

福島県 佐藤 龍一 氏  
生活環境部 生活交通課

## 会場

日比谷コンベンションホール

日比谷図書文化館 地下1階（東京都千代田区日比谷公園1-4）

## 参加 申込

2026年1月13日（火）※切

下記URLよりお申し込みください。

<https://forms.office.com/r/qJn098MC7U>

※定員（70名）に達し次第、締め切りとさせていただきます。



# プログラム

- 14:00 開会・趣旨説明
- 14:15～ 基調講演 吉田 樹 氏 持続する都市と公共交通に求められる「連携」のあり方
- 14:45～ 事例紹介 西武バス株式会社 地域交通維持の現況と関係者連携 ～一バス事業者の視点で～  
府中市 路線再編に向けたバス事業者との相互理解の重要性について  
那須塩原市 那須地域定住自立圏における公共交通の連携について  
福島県 県北圏域、県中・県南圏域における地域公共交通利便増進実施計画の策定について
- 16:00 パネルディスカッション  
～17:00

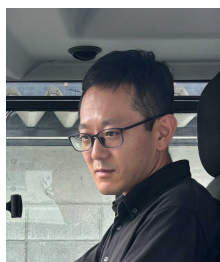
## 登壇者プロフィール

よしだ いつき 吉田 樹 氏 福島大学 経済経営学類 教授  
／前橋工科大学 学術研究院 特任教授



千葉県生まれ。東京都立大学大学院都市科学研究科博士課程修了。博士（都市科学）。専門は、地域交通政策、地域観光政策。「交通政策審議会交通体系分科会地域公共交通部会」の臨時委員として参画するほか、東北・関東を中心に各地（札幌市、八戸圏域、仙台市、福島県、栃木県、那須地域、足利市、前橋市、飯能市、和光市、吉川市、武蔵野市、小田原市、沼津市など）の公共交通政策に携わり、行政、交通事業者、地域といったプレイヤーの橋渡し役を担う。

むろい ゆうや 室井 佑文 氏 那須塩原市 市民生活部 交通防犯課 交通対策係



栃木県那須塩原市（旧黒磯市）生まれ。2013年4月栃木県那須塩原市役所に入庁。財政課、社会福祉課、学校教育課を経て、2024年4月から交通防犯課に配属。交通防犯課では、地域バスの再編など「第2次那須塩原市地域公共交通計画」に位置付けられた業務を担当。また、那須塩原市・大田原市・那須町・那珂川町の2市2町で構成される那須地域定住自立圏で策定した「定住自立圏共生ビジョン」に基づき、中心市として圏域内の公共交通ネットワークの構築などに携わる。

せきね やすひろ 関根 康洋 氏 西武バス株式会社 取締役事業本部長



東京都西東京市（旧田無市）生まれ。1994年西武バス株式会社入社。主に路線バス・高速バスの計画・申請業務、コミュニティバスや自治体関連業務を長年担当。2006年の改正道路運送法施行時は計画課長、以降制度化された地域公共交通会議の委員就任歴がある自治体数は東京・埼玉で20以上（現在は5自治体）。経営企画室長、計画部長を経て、2025年4月より現職。

ひらの じゅん 平野 純 氏 那須塩原市 市民生活部 交通防犯課 交通対策係



福島県南会津郡南会津町（旧南郷村）生まれ。2004年にジェイアールバス関東株式会社へ運転士として入社し、一般路線から高速バスまで幅広く乗務。運行管理者資格を取得し、運転業務にとどまらず管理や企画にも携わる。路線延長や廃止といった公共交通の転換点を現場で経験したことが、地域交通の課題を肌で理解する大きな財産となっている。那須塩原市には、「地域活性化企業人」制度を活用して派遣され、地域バスの路線編成を支援している。利用者目線と運行現場で培った知見を基に、持続可能な公共交通のあり方を模索しながら、安全運行を第一に日々の業務に取り組む。

やまかべ ゆうた 山下部 裕太 氏 府中市 都市整備部 計画課 交通企画担当



埼玉県本庄市生まれ。2013年4月東京都府中市に入庁。地域安全対策課、政策課、法制文書課、児童青少年課に勤務し、2022年4月から計画課に配属。計画課では、交通企画担当として、地域公共交通計画や移動等円滑化促進方針及び基本構想の策定業務などに携わる。事例紹介では、コミュニティバスを含むバス路線の再編を検討するに当たって意識した、バス事業者と市民・行政の相互理解の重要性について紹介いただく。

さとう りゅういち 佐藤 龍一 氏 福島県 生活環境部 生活交通課



福島県川俣町生まれ。2010年4月福島県に入庁。相双地域では県税部や農林事務所、本庁では原子力損害対策課、財政課に勤務。2024年から生活交通課において、地域公共交通活性化協議会の担当として、2023年度末に策定した県地域公共交通計画の進捗管理や施策実施の業務に携わる。県北圏域及び県中・県南圏域（福島県中部）における広域バス路線の再編を内容とする「利便増進実施計画」の策定を推進してきた。事例紹介では、地域公共交通の維持確保に向けて、「利便増進実施計画」を県として、関係市町村等と広域で連携しながら、どのようにとりまとめ、策定に至ったのかについて紹介いただく。

## 会場案内

### 日比谷コンベンションホール

日比谷図書文化館 地下1階  
（東京都千代田区日比谷公園1-4）

東京メトロ 丸ノ内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分  
都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分  
東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分  
JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

